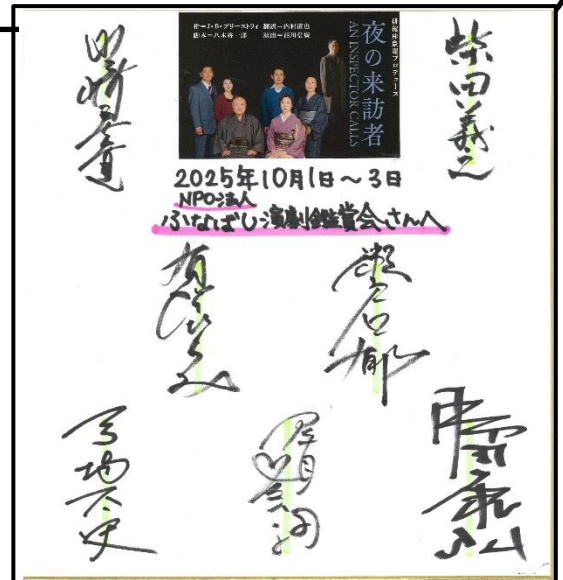


# 「夜の来訪者」

## 感想文集

NPO法人 ふなばし演劇鑑賞会



すごく面白かったです！最後まで引き込まれました。警部がいなくなつてから、全員が自分が女性を死に追いやったことを反省しているかと思いきや、自分の保身しか考えていないことに愕然としました。あの時、全員が反省して女性を思いやったら、自殺しなかったのかも、そのことを警部の最後の言葉が表していたと思いました。

(ザッハトルテ 上野 60代)

とても面白かった。展開もスピーディーで…刑事役も威厳があつて…。

人は1人では生きていられない。色んな人とのつながりの中で生きている。生かされている…。そのことをこういう形で教わるのが新鮮でした。ありがとうございます。

(亜童夢 伊澤輝美 70代)

今回、「夜の来訪者」という作品を観て、今まで観た劇の中で一番不思議な感じで終わったなと思いました。

皆が関わった女性が同一人物の女性であつて、一人一人がやつてしまった罪を打ち明けた時、反省して罪悪感を感じ生き方を更生しようとする人も居れば、結果だけを大事にして全く生き方を更生しようとしなない人も居たから、そこで「人との差」が出てしまっているなと観て思いました。

警察の人の演技を見て、迫力が凄かったのと淡々と話す時、感情を込めて声を張り話す時のギャップが凄すぎて、個人的にとっても圧倒されました。

雰囲気「相棒」で出てくる杉下さんに似ている様な感覚もあつたので、観てて惹き込まれていました。この劇を通して「何気ない行為や言葉で、人を死に追い込んでしまう事」を改めて実感することが出来たし、「生き方」を問いただしている所を見て、自分自身も「生き方」について考え直す事も出来たので、自分の中でもとても貴重な作品となりました。

(フーजीと元気な仲間たち

新井菜々美 高校3年)

登場人物一人一人の心情が手に取るようにわかつて、本当に面白く、あつという間に芝居が終わってしまいました。本当にすばらしかったです。素敵芝居をありがとうございます。

(ぎげんクラブ 佐藤 50代 女)

素晴らしい芝居に出会えて幸せだ。

舞台いっぱいセッとは劇団の意気込みと自信をうかがわれる。丁寧に造られた木製のセッとは建築物のようで、重厚で華やかである。細部にまで神経の行き届いたこれらの”作品”は、開演前の贅沢な空間を堪能し、期待が膨らむ。又、下手天井までの総ガラスは暗く、明るく、時には葉の散る様子が透けて見え、ドラマチックで照明の妙が楽しめたし、上手の本箱には様々なしつらえが有り、ドラマと無関係ではないだろうと思われた。この見事な舞台芸術に出会い、今日の芝居は凄いとわくわくした。

そして、裏切られることは無く、感動で興奮状態の終演に盛大な拍手を送った。ありがとうございます。

(ガールズ 内藤純子 80代)

休みがなく、最後までイッキに観せていただきましたが、席が後列にもかかわらず、役者さん皆さんの声が聞こえました。年のせいか、声が聞こえないと話の内容がわからず、途中ウトウトとしてしまいます。あの警部の存在はどれか？というのに、小学校5年生の方が自殺した女性のお腹の赤ちゃんだったのではと言ったと聞き、すばらしいと思いました。(フオルテシモ 柴山範子)

世にも奇妙な物語のように、最後はゾクゾクさせられてとても面白かったです。(ザッハトルテ 八田めぐみ 60代)

「影山警部の最後の言葉は、劇中の家族に発せられるというより、私たち一人一人に発せられている」との演出の西川信廣氏の言葉(会報221号)に、岩波文庫のプリーストリー作「夜の来訪者」の翻訳者・安藤貞雄氏の解説でその言葉を確認した。

「わたしたちは、一人で生きているのではありません。わたしたちは、共同体の一員なのです。わたしたちは、おたがいに対して責任があるのです。そしてみなさんに申し上げますが、もしも、人間がその教訓を学ぼうとしないなら、かれらは、火に焼かれ、血を流し、苦しみもだえながら、それを学ぶときがくるでしょう」(このことばは、第一次大戦の勃発を予兆している)、と。

警部が去ったあと家族が警部のふるまいの謎を語っているが、自殺者の写真をそれぞれに同時に見せなかったことなど「なるほど」と思った。

しかし、芝居の進行はそのような謎解きの猶予を与えないほど息詰まるものであった。日本での初演が1951年とのことに驚き、そして長い間演じられていることに納得。けれど名作・名演を堪能させていただいた。

(荒馬 草野高德 70代)

舞台のセットがとてもステキでした。セットを作成するのは大変ですよね。声もよく通って熱量が伝わって来ました。1シーンのみの、とても心に残る作品でした。(メロディ 佐藤明美 70代)

演技すばらしい。よく長いセリフを覚えた。母役の着物の着こなし、すばらしかった。最後のあいさつでのお辞儀もきれいでGOOD。いかなせん脚本が古い。(ストーリー)よく言われていること、よくある話で大げさと思ってしまう。現代に訴える内容と思えない。もつと新しいテーマを掘り下げた台本を！・ユーモアに笑える部分がないと、現代劇としてはきびしい。

(無記名 60代 男)

ミステリアスで少しコミカルで、あつという間の1時間45分でした。人間は1人では生きていられない：警部の言葉が重くのしかかりました。

(ザッハトルテ 無記名 60代 女)

とても良かったと。声も良く聞こえました。(フリージア 藤井扶江 70代)

流れの面白さにひきつけられました。まだ、？の答えを考えさせられています。自殺した女の身内かと思ったり。

(ガールズ 細谷 80代)

影山警部の去り際の言葉が印象的だった。“時には傷つけ合い、苦しめ合い……だから人間はほかの人間全部に責任があるんです。”これは物語の大きなテーマだと思う。我々全員が倉持家の人々になり得るのであろう。

(亜童夢 神原健人 高校3年生)

本当の警察の訪問を告げる女中さんの登場で舞台は暗転。奥様の持っていたグラスが落ちガシャーンと響き渡る。会場の空気は凍りつき誰も声を出せない。いやーこれぞサスペンス。面白かったね。怖かったね。謎の警部は誰だったの？と帰りの船橋駅まで話は尽きない。そして考えさせられちゃったね。と。休憩なしの1時間45分、すっかり倉持家の人々と同じように息つく間もなく振り回されました。

幸せそうな家族も一皮むけばそれぞれに何と罪深い人々なのかを暴かれる恐ろしいお芝居でした。いや実は自殺者はいなかったと娘の婚約者の報告に、良かった良かったとまるで何もなかったかのように安堵する大人の変わり身の早さに呆れ、思わず笑い声も出てしまいました。人間なんてそんなものかも知れない。だからこそラストの怖さは強烈。人間の社会は、私は関係ない・私は知らなかったとして責任逃れは出来ないのですと、去り際に残した謎の警部台詞は改めて私に突き刺さるのでした。

(炎 渡辺智恵子 70代)

大変面白かったです。目の付け所、主題がいいですね。(華まる 無記名)

舞台装置、俳優さんのセリフ、素晴らしかったです。一つ一つ明らかになるのを、ドキドキして聴いていました。心に残る舞台でした。

(テラ 山西愛子 70代)

舞台のドアや窓などがとてもきれいで、一人一人のお芝居がとてもリアルで物語に入り込んでしまいました。

サスペンスな演劇でしたが、面白い場面もあって観ていて楽しかったです。最後、影山警部から言われたことが全てうそだったと安心してた所に、女が自殺したと電話があったシーンが怖いなと思います。鳥肌が立ちました。

昭和のレトロな服装や家具などが、当時の雰囲気を出していて面白いなと思いました。

(フリージーと元気な仲間たち 鍛冶屋ひな 高校3年)

こういう芝居、とても好きです。世の中には説明の出来ない事もあります。一人の人間の死は、とても重いものだと思います。面白くて、楽しく、そして考えさせられました。人と人とのつながりは、目に見えないものも含めてたくさんありますね。今の世の中は、逆に行っているみたい。俳優座劇場の皆様、ありがとうございます。

(ハッピープリンス 春日井治 70代)

社会的なテーマのあるお芝居もいいですが、今回のように単純に演劇鑑賞を楽しめるお芝居は、自分の心を贅沢にしてくれるなと思いました。謎の男性は誰だったのか、実在するのか、不思議で怖かったです。

(フリージーと元気な仲間たち 西山麻弥)

交流会でも発言しましたが、私は50年前の昭和50年にNHKの番組でこの劇を観ておりまして、配役は父親、山形勲、母親、関弘子、娘、関根恵子、婚約者、蟹江敬三、息子、火野正平、そして警部、内田良平というものでインテリヤクザ風の警部役がのりくらりと一向に引かず、中々の怪演でした。今回その役をどんな風に演じるか目を皿のように注視しましたが、これも何か怖いような演技でした。カーテンコールでにこにこして出て来たのには少し安心した程です。役者さん曰く、芝居中手を全く動かさなかったこと、逆に体をよじったりしたらセリフが出てこないなど、貴重な舞台裏が聞けました。又、警部役の正体は？というくだりで、一緒に観た小学5年の孫の娘さんが「あれは生まれなかつた子供の霊じゃないか」と指摘した事、私などは「胡散臭い人物だ」程度の印象しか持ち合わせず、こういう見方もあったのかと恥じ入った次第でありました。ライブで良き声、演技の役者さんに接し、こんな感動や舞台裏まで聞けて、本当に「演劇っていいですねー」。

(富士桜 朝日崇 70代)

一番前の席で、今までと席を左側にしていたでいて、役者さんの声が良く聞こえて、内容より今までにない嬉しさや新鮮さすら感じました。担当でしたが、何も出来ず、本当に申し訳ありませんでした。(かぶわけ 畑野 女)

次々と明らかにする事実。突きつめられる心理の状況に、惹きつけられて、これでもかこれでもかと、ミステリーの世界に引き込まれました。それぞれの配役の迫力のこもった演技がすばらしかったです。

意見として、労働争議の中で、解雇された話の中で「アカでなかった」という言葉になりました。アカなら当然という意味なのでしょうか？この言葉おかしくないですか！

(宙 石橋須美江 70代)

全員同じ人物を思い浮かべている証拠はないのに。疑問に思わせなかった演出が凄いいと思いました。

(ルナ 中西洸貴 高専3年)

白熱の演技に圧倒され、とても面白かったです。

(コルセット 植松礼子 70代)

今日のお芝居は、とても不思議な演劇でした。このような心理サスペンスは観た事がなかったもので、新鮮な感じで見入りました。人間の奥底に潜む、心理を練りに練った言葉で表現されていて、あれっ？おやつと最後まで、はらはらしながら観させていただきました。とても満足し、極上なディナーをいただいた様な気分にはせられました。とても贅沢なひと時をありがとうございました。

(パンパスグラス 遠藤竜子)

まず舞台の豪華さに胸がときめきました。謎の刑事の出現で明かされる事実。不幸な女性を死に追いやった事に心を痛める子ども達と、その真実から逃げたい親。どちらの立場にも自分を見つめます。結論の出ないままに終わった芝居に、私たちは自由にあとのストーリーを作って良いのでしょうかね。

(ガールズ 久藤敬子 80代)

舞台セットがいつもより本格的というか、豪華だったのですごく作品の世界に入りやすくて、今まで観たものの中でも結構好きな作品になりました。・ミステリーのお話もすごく好きなので、観ながら色々と一緒に推理してみたり、答えがわかった時になるほどな面白さを感じました。・自分が犯した過ちを誰かのせいにするのは、作品の中だけじゃなく実際にこういうこととあるなど考えさせられました。この作品は最後の終わり方がこの先の続きは観る人によつて考え方が変わってくるから、誰かとその話をしながら帰り道を帰ってたら、絶対楽しいなとも思いました。

(フージーと元気な仲間たち

池田朱音 高校3年)

一人一人が実はつながっているのだということが良くわかった劇でした。どんなつながりだったのだろうと、ハラハラドキドキの時間となりました！ありがとうございました。(無記名 60代 女)

「サスペンス」もののなのに、喜劇的要素もあり、釘付けになりました。各俳優さんの熱演に興奮。誰が「主役」かわからなくなる程でした。テレビの「サスペンス」ものをみることもあるが、演劇に比べ熱量が違う、やはり芝居(舞台)は捨てがたい。それにしても、幕が下りた後の「結末」はどうなるのか？気になってしまった。(宙 田口誠雄 80代)

最後のシーンでイタズラかと思っただけの後、どんでん返しがとてもおもしろかったです。

(ガバー 奥田和誠 中学3年)

とてもコンパクトにまとまり、楽しめました。(平間れい子 70代)

奇妙な空気がクセになりました。ドキドキして、安心して、最後ゾクゾクとして観て良かったです。若い人は感覚が新鮮なんだなあと感じました。年を取ると、良くも悪くも動じないので、感覚も衰えてゆくんですね。

(ピリカ 奥山 女)

今まで2年くらい毎回観たが、一番良かった。引き込まれつ放し。考えさせられた。脚本のすごさをよく演じてくれた。ありがとう。(小畑貢 80代)

迫力があり、集中して観劇できました。すばらしかったです。

(ちびっこ 60代 女)

影山さんが精霊？みたいに思いました。反省しなかったから、現実になったのかな？と思います。

娘さんと息子さんは反省し現実に向かっているのに、母、父、婿が向かっていないので、だめなんかな？と思います。

(ガーベラ 奥田和佳 小学校6年)

演者さんがとても演技が上手で、自然に話に入り込めました。前半、話がだんだんとつながっていく、全て謎がとけたと思いきや、後半につれてだんだんと疑問が増え、一番最後の現実化(?)で、一気に話にひきこまれた。

最後のピアノの曲の不気味さが、鑑賞後の後味を独特なものにしていた。

(子育てネット 千田帆夏 中学生)

すばらしい演劇でした。しかし、台詞の所でその女性が「赤ではなかった」とありました。まるで「赤なら首切りを

しても良い」というように観客に思わせませす。時代の設定が昭和15年だからだと思いますが、演劇の台詞も、その時代時代に合わせ進歩していると思います。そう考えるならば、「赤ではなかった」(だから首切りをする必要はない)「赤だったら」首切りOK! 演劇の台詞も、現代の人々が思考し、学び発展するような脚本・台詞をより考案してほしいと思いました。(無記名 70代)

何が何だか良く理解出来ない。

(YMO 田中弘之 60代)

たった1時間45分のドラマのなかに、人間の欲望・酒・富・女性問題などがからむ世の中の不可思議さがみごとに圧縮され、ちりばめられた芝居だった。娘の婚約という目出度い人生の門出の宴たけなわのところに、急転直下、生活に行き詰って死に至る関係ある若い美女の事件へとスライドして芝居は

流れていく。はたして影山警部という事件を運んできた夜の来訪者は、本当の警部なのか。倉持家の家族らをねちねちと警部が一人ひとり問い詰めていくさまは、英国特有のウィットに富む緊迫したおもしろさで、まるで後ろを向いて舌を出している作者が見えるようだ。そのセリフを聞きながら、家族愛・名誉欲そして女性への愛欲などさまざまな欲望が、一歩間違えば犯罪につながるかねない人間社会に隠れていることを、観客は嫌でも理解させられるはずだ。

警部の帰ったあと、警部の話がほんとうかどうか確かめの電話を病院などにして確認し、いったんは安堵するけれど、そのあと逆に警察から電話がかつてきて倉持家に来訪すると、安堵が不安にどんどん返しになって幕は閉まる。真実はどこにあるのか。

原作者は英国人で、80年前にロンドンで初演された古典的な芝居だそうだが、戦中の日本人社会の話にすり替えた脚本も違和感なく見事に仕上がっていて、すばらしい芝居を満喫してホールをあとにした。楽しませて考

させてくれた「俳優座劇場」のスタッフ・キャストの皆さんに拍手し心から感謝します。(マゴメ ムラタ)

とても面白かったです。

(テラ 高田眞理子 60代)

若い頃に聞いた名の題名でした。

(コルセツト 高橋紀子 80代)

音楽が無いのが不気味だった。最後に同じことが繰り返されていて鳥肌が立った。母が皿をガシャンと落とすのと、中の明かりが消えるのが一緒に恐怖を感じた。そして、あの男は消毒液を飲んで自殺した女だったと思う。

理由は、何度も「女が死にました。」と強く言っていたこと、全てを予言していたことなどだ。そして、最後にその男が言った言葉一つ一つは私たちに向けられた言葉だなと感じた。

(ゲキ友 中学3年 女)

とても良かった。これぞお芝居ですね。仮想空間引き込まれました。あつという間に終わった！これからじっくり内容をつかんで、自分の心の中に問いたいです。警部さん、右京さんのようでした。

(あひるの部屋 中谷 70代 女)

大変面白かったです。これから頑張ってください。

(フエーシップ 無記名 女)



### おめでとうございます！

#### 「夜の来訪者」サイン色紙当選者

1533 フォルテシモ 柴山 範子さん  
1755 ガールズ 内藤 純子さん  
1811 フージーと元気な仲間たち 新井 菜々美さん

※当選した方は申し出てください。



アンケート枚数	45枚	(回収率3.1%)
当日会員数	1,750名	
例会参加者	1,433名	(参加率81.9%)